



51 《薩摩焼 躑躅に孔雀図花瓶》

大正期（二十世紀初頭）

陶磁

右…径五五・〇 高八六・五

左…径五五・三 高八八・五

薩摩焼の大型花瓶一對に躑躅と桜にクジャクが描かれている。クジャクは各花瓶につがいで描かれており、右方は飛翔する姿、左方は羽を閉じて優美に佇んでいる。躑躅の花は赤や黄、桃、白色が用いられ鮮やかな色絵金彩であるが、特にクジャクの首から腹にかけてのエメラルドグリーンの色彩の発色が良い。花瓶の口縁から首部にかけてと下部には、金泥風に雲霞が描かれており、重厚かつ雅な雰囲気醸し出している。本作は大正六年（一九一七）五月八日、大正天皇が島津公爵邸に行幸された折、島津忠重より献上された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan